

訓子府町道西 33 号線の道路損傷に関する調査メモ

調査日；2016/9/5（月）

調査者；宮森保紀（北見工業大学）

調査箇所；訓子府町 （43°44'20.21"N 143°40'36.25"E）

概要；

畑地を南北に縦貫する道路盛土が両側から崩落した。崩落箇所には排水管が埋設されていた。

図1、図2のように現地は北西から南東に緩やかな傾斜を持った畑地となっている。上流側の畑地は図3のように浸水しており、その末端に図4、図5の被災箇所がある。排水管の周囲の盛土がトンネル状に流出しており、大量の雨水の流入により排水管の流下能力が不足したことが被災の要因と考えられる。



図1 被災箇所見取り図（地理院地図に加筆）



図2 被災箇所全景（南側から撮影）
赤線が被災箇所



図3 畑地の浸水状況



図4 被災箇所上流側



図5 被災箇所下流側

連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 准教授 宮森保紀
eメール: miyamoya (at) mail.kitami-it.ac.jp